英国のNVQからQCFへの経過と背景について

職業能力開発総合大学校　能力開発専門学科　　谷　口　雄　治

Passage from NVQ to QCF and the Background in UK

Yuji TANIGUCHI

Summary

The NVQ system was introduced in the United Kingdom in 1987, and has been permeated and established steadily. However, they decided that all NVQs are going to shift to QCF, which is a new comprehensive qualification framework, by 2010. Why do they make the NVQ shift to the QCF, despite having developed favorably and having been copied as a model of a qualification system by foreign countries? Then, the subject of this paper is to solve the questions what intention and the problem significant are in the shifting to the new qualification framework.

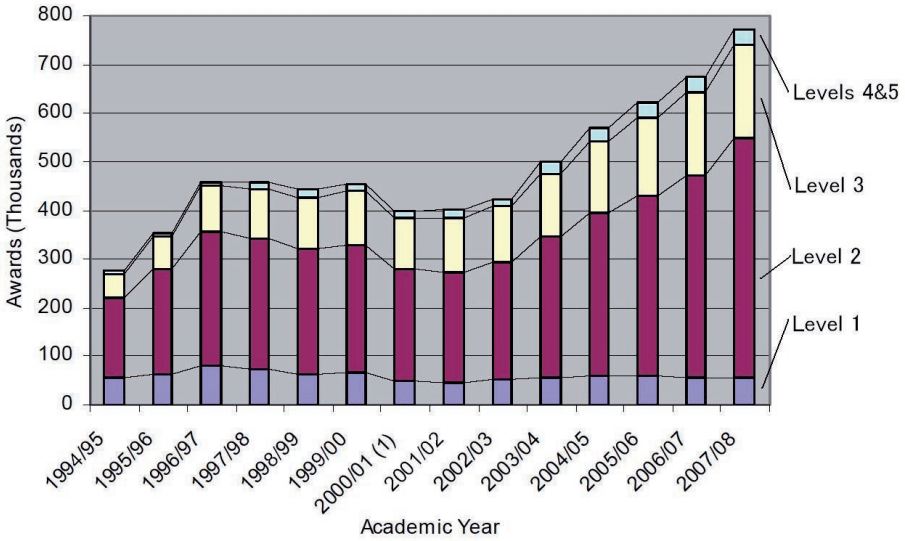
１．はじめに

新たな包括的な資格枠組みであるQCF（Qualifications and Credit Framework）は、2008年６月に約２年間にわたるイングランドでのパイロットテストを終え、同年11月に本格実施について大臣の許可が下りた。職業資格と学力認定資格の企画調整のための全国統一機関であるQCA（Qualification & Curriculum Authority[注1]）では、現在、2010年までにすべてのNVQ(National Vocational Qualifications：全国職業資格)をQCFに移行すべく作業に取りかかっているところである。新たな資格枠組みQCFは、資格と学習ユニットのためのクレジット（履修証明）を授与することによって成される資格とスキルの新しい認証方法である。これは柔軟なルートに沿った個人のペースによる資格獲得を可能にするとQCA等推進者側では期待している。

しかしながら、新たな資格枠組みQCFの展開は、サッチャー政権時代に導入された全国共通の職業資格であるNVQの解消を意味する。NVQは、1987年の導入以来着実に浸透・定着し、その資格取得者数も図１のとおり順調に拡大してきた。また、他国からも資格制度のモデルとして注目を浴び、模倣もされている。にもかかわらず、QCFへの制度の改変にはどのような目的・意味があるのであろうか。そこで、従来のNVQにはどのような問題点があり、新たなQCFでは何を狙っているのであろうかということについて検討する。

２．QCFの概要　～「サイズ」と「レベル」による枠組み～

新たな資格枠組みQCFは、どのようなコンセプトに基づいているのであろうか。QCFは、端的に言えば、資格（qualification）および学習ユニット（スモールステップの小さな単位であっても可能）のための「クレジット（credit)」を一つの枠組みの中で与える制度である。これによって、職業能力評価にかかる既存の多種・多様の資格や履修証明は同一のシステムに統合されるとともに、学習者は自分のペースでしかも柔軟なルートで資格を得ることが可能になる。



＊(1) 2000/01はNVQのみの授与数

図１　NVQ/SVQのレベル別年間授与数　（出所）NISVQ/QCA（注２）

QCFに位置づけられるすべての資格（または学習ユニット）は、図２に示すように、「サイズ」と「レベル」という二つの概念によって価値が示される。「サイズ」とは、その資格（または学習ユニット）を修得するのに要する時間や努力の程度を表す概念である。サイズの程度を表す単位として「クレジット」を用い、１クレジットは修得に要する学習時間が10時間相当と見なす単位である。したがって、サイズを表すクレジット数でその資格を修得するにはどれくらいの時間を要するのかの見当がつけられる。サイズの程度を分かりやすくするために、クレジット数に応じて３種類に区分している。すなわち、１～12クレジットを“Award”、13～36クレジットを“Certificate”、37クレジット以上を“Diploma”と称する区分である。

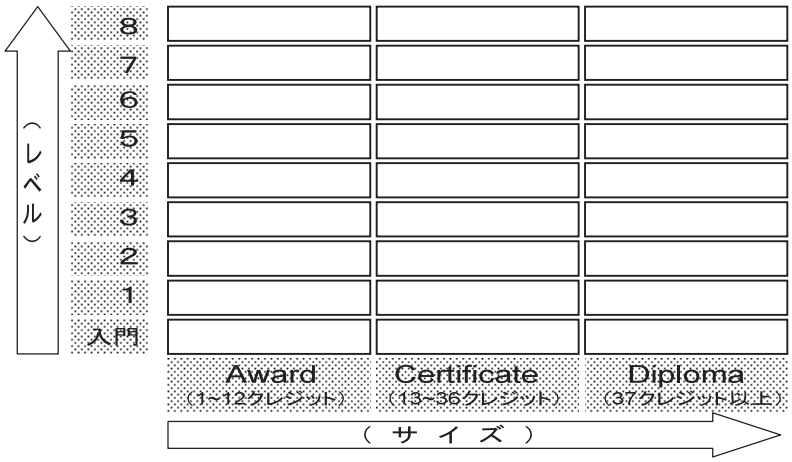


図２　QCFの基本概念

＊QCA，“What is the QCF?”〈http://www.QCA.org.uk/QCA_19674.aspx〉をもとに筆者作成

また、QCFにおける資格（または学習ユニット）のもう一つの概念である「レベル」とは、修得内容の難易度を表す概念である。レベルは８つの段階に分けられ、“レベル１”から“レベル８”へと順次難易度が高くなることを表している。その資格を修得する難しさが大体どの程度なのかについては、GCSE（General Certificate of Secondary Education：中等教育修了一般証書）(注3) のグレードＡからＣまでがレベル２に、GCE－Ａレベル（General Certificate of Education－Advanced levels：中等教育修了証書－上級）(注4) がレベル３に、博士号はレベル８にそれぞれ該当するとしている。この目安が個々のレベルのチャレンジと難しさの程度を知る手助けとなる。さらに、１から８の数字で表されるレベルの番外（前段階）として「入門（Entry)」がある。これは、基礎的な学力や能力にかなり不安がある場合、資格取得に向けた学習・生活のためのスキルや自信を向上させることなどを内容とする準備のレベルである。QCFの最終案では、「入門」はさらに“Entry１”から“Entry３”まで３段階に区分している。

以上のようにQCFでは、個々の資格（または学習ユニット）をサイズとレベルによって表現し、学習者がそれらについてどの程度難しいのか平均的な学習者で修得するまでどれくらいかかるのかを容易に理解できるようにし、その資格の内容に関する記述が加わることよってさらに具体的に把握できるようにすることを目指している。なお、QCFを推進するQCAでは、この新しい枠組みによる理解と測定の簡単な方法で現在の資格を支援することができると述べている。なお、国内４地域では、透明性のある資格枠組みを開発するという共通理念があるものの、QCFへの取り組み方に足並みが揃わなかったという経過もあり、そうした経過を引き摺るかたちで地域によって呼称が異なっている。

- イングランドと北アイルランドは「QCF」
- ウェールズは「CQFW」(Credit and Qualifications Framework for Wales)
- スコットランドは「SCQF」(Scottish Credit and Qualifications Framework)

３．QCFへの改変に至る経過　～NVQからNQF、そしてQCF～

今般のQCFへの改変の意味について検討するために、NVQが導入された1987年から2008年11月のQCFへの改変に至る約20年の過程について、時系列で概観してみよう。

3.1 NVQの概要とその意義

1986年７月に、中央政府は職業技能に関する全国共通到達度枠組みを業界横断的なかたちで設定するという政策方針を打ち出した。このことは、それまで民間レベルで行われてきた職業能力認証に政府が初めて関与することを意味した。この政策方針に基づき、職務の能力を評価判定する制度として、NVQがつくられた。この背景には、従来行われてきた職業能力認証が専ら座学的知識による評価判定であり真の仕事の能力を評価するものではなかったという問題があった。このためにNVQには、単なる知識ではなく実際に仕事ができることを認証するという使命が課された。そこで、座学による普通学力や職業に関する基礎的知識・理解については原則的に評価判定の対象とせずに、評価基準は各業界で設定することとした (注5)。

では、NVQの仕組みについて簡単に補足しておこう。NVQの最大の特徴は、職業資格の基準が明瞭に示され、基準は資格取得のために必要な職業訓練のプロセスとしても設計されている。つまり、NVQの各資格は「ユニット」から構成されており、その構成要素としての資格ユニットは学習ユニットとしても成立している。NVQ資格の構成要素となる資格ユニットひとつ一つの評価判定をパスすれば最終的にNVQ資格を取得することになる。したがって、資格ユニットは、学習のスモールステップ

の目標または単位としても機能するのである。

NVQは、「セクター（分野）」と「レベル（等級）」ごとに設定されている。「レベル」とは、５段階に区分された水準等級である。各水準等級の目安となる能力の評価基準は、表１に示すとおりである。

表１　NVQのレベルと能力要件

等　級	必要とされる能力
NVQ レベル５	予測困難な事態に対応でき、人材・資材の配置について高度な責任が求められる。計画、設計、実行、評価、分析、判定の確実な能力が求められる。
NVQ レベル４	複雑で技術的・専門的な作業ができ、仕事に対して相当高い責任と自主性が求められる。他の作業員の仕事に対する責任や人材・資材の配置についての責任もかなり求められる。
NVQ レベル３	非定型で複雑な作業に対応でき、仕事に対してかなりの責任と自主性が求められる。作業指導など監督的な能力もしばしば求められる。
NVQ レベル２	ルーチンワークのほか、ある程度変化のある作業もできる。仕事に対する責任と自主性も多少求められる。
NVQ レベル１	主に予測できる決まった作業（ルーチンワーク）ができる

（出所）QCA “Purpose of the framework, areas, levels and listings”（http://www.QCA.org.uk/ QCA_7134.aspx）

一方、「セクター」とは産業と職業を加味した区分であり、当初の基準策定では11の産業分野で72のNTO（National Training Organisation：全国訓練組織）が関わった。ところが、NTOがあまりに多く認可されたために、セクター間での基準の重複や小規模NTOでの活動の形骸化等の問題が生じ、大規模NTOが小規模NTOを吸収するかたちで新たな組織SSC（Sector Skills Council：分野別スキル協議会）に再編された。なお、SSCは、最終的には表２のとおり、25組織が認可されている。SSCのNVQに関わる役割は、資格基準の開発を行うとともに、基準が産業・職業実態と乖離しないようにメンテナンスを行うことである。

以上のとおりNVQの開発以降、職業訓練はNVQによる職業資格の取得を最終目標として行われてきた。この意味で、NVQはイギリス職業訓練の要となってきたといえる。

3.2 GNVQの導入

NVQは職場でOJTを中心に仕事を通して身に付けた職務遂行能力を評価する制度である。この意味で、NVQは継続教育カレッジ等の教育訓練機関でフルタイムの課程で学習した者に対する評価制度として必ずしも適しているとは言えない。また、高等教育機関への進学コースと職業教育コースとの社会的地位の格差是正という課題もあった。このような問題・課題を背景として、1991年に教育科学省・雇用省・ウェールズ省が、共同白書『21世紀に向けての教育と訓練(注6)』でアカデミックな資格と職業資格とを統合した新しい資格としてGNVQ（General National Vocational Qualification: 一般全国職業資格）を提案した。こうして翌1992年に継続教育カレッジ等でフルタイムの職業コースを学ぶ学習者を対象として職業専門知識を認定する資格制度としてGNVQが導入された。認定の対象となる分野は、芸術・デザイン、ビジネス、工業、情報通信技術、小売、流通サービス、旅行・観光などの14分野である。GNVQによる資格は、一般学業科目が苦手な14～19歳の若年者に対して、普通学力資格であるGCSEやGCE-Aレベルの代わりになるように選択でき、高等教育機関への入学資格を補完で

きるような仕組みが取られた。つまり、GNVQは、一般・普通教育と職業教育訓練との隔たりを埋めることが期待されて導入された資格であった(注7)。就職に向けての基礎資格であると同時に高等教育機関への入学資格を兼ねたGNVQは、学習者には受け入れられやすかったが、このこと自体を問題視する見方もあって2007年10月までに完全に廃止されることとなった。

表2　SSC一覧

SSCの名称	分　野
Asset Skills	施設管理、住宅、財産、企画、掃除、駐車場
Cogent	化学、医薬、石油・ガス、原子力、石油産業と高分子
Construction Skills	建設業界
Creative & Cultural Skills	広告、工芸品、文化遺産、デザイン、音楽、舞台、文学や視覚芸術
e-skills uk	ビジネスと情報技術
Energy & Utility Skills	電気、ガス、廃棄物管理と水の産業
Financial Services Skills Council	金融サービス、会計、金融
GoSkills	旅客運輸業
Government Skills	中央政府、全ての市民サービス部門、機関、非政府機関や軍部門
IMI	自動車小売業
Improve Ltd.	食品および飲料の製造、加工
Lantra	土地の管理と生産、動物の健康と福祉と環境産業
Lifelong Learning UK	地域学習と発展、さらに教育、高等教育、図書館、アーカイブと情報サービスと作業学習
People 1st	契約フードサービスプロバイダ、イベント、ギャンブル、休日の公園、接客サービス、旅行、ホテル、会員制クラブ、パブ、バーやナイトクラブ、レストラン、自炊宿泊、観光サービス、旅行サービスと観光スポット
Proskills	建築製品、塗料、抽出、鉱物加工、家具、調度品、インテリア、ガラスとガラス取付け、釉陶芸、紙、印刷産業
Semta	科学、工学、製造技術：航空宇宙、自動車、バイオサイエンス、電気、電子、メンテナンス、マリン、数学、機械、金属加工および金属製品工業
Skillfast-UK	ファッション、繊維：設計、製造、衣類、履物、繊維織物のサービス
SkillsActive	アクティブなレジャーや学習業種：スポーツとフィットネス、アウトドア、アドベンチャー、 プレーワーク（子供の遊戯活動）、キャンプ場やトレーラーハウスでの旅行
Skills for Care and Development	社会的ケア、子供、初期的・若者労働力
Skillset	クリエイティブメディア：テレビ、映画、ラジオ、出版社、インタラクティブメディア、コンピュータゲーム、アニメ、フォトイメージングと設備
Skills for Health	健康と医療
Skills for Justice	法務部門
Skills for Logistics	貨物物流業界
Skillsmart Retail	小売部門
SummitSkills	建築設備工学：電気技術、暖房、換気、エアコン、冷凍配管業

（出所）Alliance of Sector Skills Councils〈 http://www.sscalliance.org/ 〉

3.3 NQF（National Qualifications Framework：全国資格枠組み）

GNVQの有無に関わらず、NVQの進展とともに職業資格を教育資格と同価値とみなして、その全国的水準を示そうとする動きが起こった。両資格の対応表のような形のNQF（National Qualifications Framework：全国資格枠組み）の考え方が登場し、1996年にはデアリング（Sir Ron Dearing）による報告書『16～19歳を対象とした資格の見直し（Review of Qualifications for 16 to 19 Years Old)』が、職業資格と教育資格の統一的な資格枠組の確立の必要性を指摘した。これによって、NQFの政策上の重要性が浮上した。こうした流れを受けて政府は、1997年に学校カリキュラム・評価機関であるSCAA（School Curriculum and Assessment Authority）とNVQの運営推進機関であるNCVQ（National Council for Vocational Qualifications）の組織統合を行い、QCAを設立した。早速、QCAは統一的な資格枠組となるNQFの構築を目指し、一般資格（教育資格）とGNVQとNVQとの対応関係を示す目安を示した（表３）。さらに、2004年にQCAでは上級レベルの段階を細分化するかたちで、「入門（Entry)」レベルからレベル８までの全体で９段階の資格枠組（資格水準対照表）を作成した（表４）。

表３　一般資格・GNVQ・職業資格の対応表

<table>
<tr><th>資格のレベル</th><th>一般資格</th><th>GNVQ</th><th>職業資格</th></tr>
<tr><td>レベル５</td><td colspan="2" rowspan="2">高等レベル資格</td><td>NVQ レベル５</td></tr>
<tr><td>レベル４</td><td>NVQ レベル４</td></tr>
<tr><td>レベル３</td><td>GCE-A レベル</td><td>職業的Ａレベル
（上級 GNVQ）</td><td>NVQ レベル３</td></tr>
<tr><td>レベル２</td><td>GCSE グレードA～C</td><td>中級 GNVQ</td><td>NVQ レベル２</td></tr>
<tr><td>レベル１</td><td>GCSE グレードD～G</td><td>初級 GNVQ</td><td>NVQ レベル１</td></tr>
<tr><td>入門レベル</td><td colspan="3">学力証書</td></tr>
</table>

表４　NQFにおける資格水準対照表

<table>
<tr><th>水準段階</th><th colspan="3">対応する学歴･学位･資格</th></tr>
<tr><td>レベル8</td><td colspan="2">博士（doctoral）</td><td rowspan="2">NVQレベル５など</td></tr>
<tr><td>レベル7</td><td colspan="2">修士（masters）</td></tr>
<tr><td>レベル6</td><td colspan="2">学士（優等）（honours）</td><td rowspan="3">NVQレベル４，
「キー・スキル」レベル４
など</td></tr>
<tr><td>レベル5</td><td>高等教育（標準複数年履修）レベル
（intermediate）</td><td>HND,基礎学位
（foundation degree）など</td></tr>
<tr><td>レベル4</td><td>短期高等教育（標準１年履修）レベル
（certificate）</td><td>HNCなど</td></tr>
<tr><td>レベル3</td><td>後期中等教育修了レベル
＝Aレベル，ASレベル</td><td colspan="2">NVQレベル３，「キー・スキル」レベル３，
「技術証書」レベル３，BTEC Nationalなど</td></tr>
<tr><td>レベル2</td><td>義務教育（標準16歳）修了レベル
成績上位＝GCSE評定A～C</td><td colspan="2">NVQレベル２，「キー・スキル」レベル２，
「技術証書」レベル２，BTEC Firstなど</td></tr>
<tr><td>レベル1</td><td>義務教育（標準16歳）修了レベル
成績上位＝GCSE評定D～G</td><td colspan="2">NVQレベル１，「キー・スキル」レベル１，
「技術証書」レベル１，BTEC Introductoryなど</td></tr>
<tr><td>入門レベル</td><td colspan="3">（学習にかなり遅れが見られる者を主に対象とする）
基礎的技能に関する証書など</td></tr>
</table>

（出所）柳田雅明・新井吾朗「イギリスの徒弟制度」（『熟練工養成の国際比較』）79ページ

表４の水準対照表のとおり、NVQのレベル１～３は、NQFのレベル１～３と一致するかたちとなっている。また、普通学力に関する資格GCSEは、標準16歳の義務教育修了時に実施される学力認定資格試験であり、NQFのレベル１およびレベル２に対応している。大学入試のための主流の学力試験として機能しているGCE-Aレベルは、NQFのレベル３に位置付いている。そして、高等教育段階においては、学位(degree)、ならびにHND(Higher National Diploma：高等全国修了証)やHNC(Higher National Certificate：高等全国証書)といった資格群がそれぞれ位置付けられている。また、2002年からは、「アプレンティスシップ（徒弟訓練）」に対応して、「技術証書（Technical Certificates）」という新たな資格種別を導入している。

４．QCFへの改変の背景(1)：国内要因

QCFへの改変の主要な背景の一つに、NVQの進展にもかかわらず、イギリスの人々が保有する多種多様のすべての資格を理解するのは至難のことという問題がある。つまり、それぞれの職業資格がどの程度のレベルのものなのか、取得するのにどのくらいの期間を必要とするのか、どのような内容をカバーしているのか、あるいは他の資格と比較してどうなのかといったことを理解することが難しいのである。資格の枠組みとして従前のNQFよりいっそう包括性を高めたQCFは、これまで個別に扱われてきた多数の職業資格を収容することが可能となる。

さらに、NVQの５段階による水準等級間の「段差」が粗いという指摘がある。この点については、労使双方（イギリス経営者連盟CBI：Confederation of British Industry、労働組合会議TUC：Trades Union Congress）からも不満の声があった。NVQでは水準等級間の「段差」を大きく設定しているため、せっかくNVQ資格の取得を目指して訓練を開始したにもかかわらず、取得に到達できない者、あるいはアプレンティスシップ半ばで他産業に移ったために能力の向上が認められるにもかかわらず資格なしで終わる者が少なからず存在する。つまり、「資格あり」か「資格なし」かの二元的結果しかないという不満である。ならばNVQのとれる一部を分離して取得しやすい方法を模索すべきであるとの意見もあった(注８)。

また、QCFを導入する過程で最も影響力のあったものが、リーチ報告書(注９)である。同報告書は、イギリス労働力の低いスキルを課題として、2020年を目標とする「世界水準のスキル開発」を提案している。とくに問題としたことは、在職者・事業主に対する職業訓練施策が充分に成果を上げていない点である。その理由として、職業訓練制度の複雑な実施体制を挙げている。同報告書は、問題解決のために在職者・事業主に対する職業訓練を行う新たな機関を設置し、その役員には民間企業から選出することで事業主・在職者のニーズに即した訓練プログラムを策定することを提案した。このためには、在職者が受講した学習機会の成果が小さな単位であっても認証可能とするような柔軟な学習・資格認証の仕組みが求められる。この意味でQCFは、上記CBI等の不満に応えるものとして構想された。事実、QCAでは、QCFの柔軟性の利点について以下のように挙げている(注10)。

学習者にとって――

- より多くの自由度、選択肢、柔軟性がもたらされる
- 学習者が自分のペースでクレジットを構築し、その場所・方法を学習者の希望で組み合わせることができる
- 到達のための異なるルートに必要な義務（commitment）に関する情報へ容易にアクセスでき、学習者にその義務と家族や仕事その他の責任とのバランスをとらせる

学習プロバイダー（学校、カレッジ、職場）にとって――

- 学習者個々のニーズに適したより柔軟なプログラムのデザインを可能にする
- より頻繁にスモールステップの達成を認証することによって学習者の成長率や改善持続を支える

使用者にとって――

- 国の枠組みの中で認定された企業内訓練の実施を可能にする
- 訓練のオプションと経路を明瞭にすることができ、使用者と被用者が学習およびビジネスのニーズに合った正しい訓練を見つける手助けをする
- より包括的な枠組みであり、幅広いレンジで資格を収容する

5．QCFへの改変の背景（2）：国外要因

5.1 背景としての欧州資格枠組みEQF

QCFへの改変の背景には、多様な職業能力評価が整理されないままであるという国内要因の一方、国外要因として欧州資格枠組みEQF（European Qualifications Framework for Lifelong Learning）が関与していると考えられる。

EQFの発端は、2000年 3 月にリスボンで開催された欧州理事会（European Council）において「2010年までに世界でもっとも競争力のあるダイナミックな知識基盤経済を実現する」という10年間の戦略目標の合意である。この「リスボン戦略（Lisbon Strategy）」の目標を実現するための職業教育訓練に関する政策が、2002年11月にコペンハーゲンでの欧州委員会（European Commission）で「コペンハーゲン宣言」として採択された。この宣言に基づき職業教育訓練分野における透明性、相互認証、質の保証等に関する2010年までの具体的な取り組みが開始された。この取り組みは「コペンハーゲン・プロセス」と呼ばれ、高等教育分野での欧州間の共通的枠組み構築を目指す「ボローニャ・プロセス(注11)」と同様の取り組みを職業教育訓練分野においても実現させようとするものである。コペンハーゲン・プロセスは、 2 年ごとの進捗の検証と内容の見直しによって進められた。2004年12月のマーストリヒトでの進捗状況の検証・内容見直しの会合において、EQFおよびEC-VET（European Credit system for Vocational Education and Training：欧州職業教育訓練単位制度）の開発が今後の職業教育訓練の優先的政策として設定された。すべてのEU加盟国からの専門的意見を吸い上げるという開発プロセスにしたがって、2005年に 1 年間かけて枠組みのドラフトについて協議し、2008年 4 月に最終的な枠組みが正式に採択された。各国は第一ステージとして2010年までにEQFに適合する国内の資格制度を整備し、第二ステージとして2012年までに国内の個別の資格をEQFと参照可能にすることが求められた（ただし義務ではない）。

5.2 EQFの概要

EQFは、欧州各国が生涯学習のために互いにその資格制度をリンクすることを可能にする欧州共通の基準枠組みである。つまりEQFは、特定の国や地域に基づいてつくられた枠組みではなく国・地域を超越したメタ枠組みであり、各国・地域の個々の資格を比較参照しやすくする言わば翻訳装置として機能するものである。資格との関係でEQFが対象とする教育は、一般・成人教育、職業教育訓練、高等教育等、義務教育修了以降の公式および非公式の教育である。しかしながら、欧州の教育制度は、インプットつまり就学期間をベースにした比較ではかなり多様で扱いにくいと認識されている。そこでEQFでは、学習経験の長さや学校のタイプであるインプットではなく、実際に知っていること・で

きること（特別な資格をもっていること）に焦点を当てることを特徴とした。このため、表５に示すとおり参照基準を資格取得に必要とされる学習成果を知識、技能、能力の３つに分けて、それぞれの到達の難易度を８段階に区分している。

表５　EQFにおける各レベルの定義

レベル	知　識 （論理的で事実に基づく知識）	スキル （認知と実技のスキル）	能　力 （責任と自主性という点での能力）
8 (*4)	仕事または学習の領域における最も高度な最先端の知識および境界間の接点における知識	研究または改革における重大な問題を解決するため、既存の知識または専門的な実践を拡張し再定義するために要求される、評価と統合を含む最も高度で専門的なスキルと技術	実質的な権限、革新、自主性、学問的･専門的な規範を示し、研究を含む仕事または学習の状況の最前線で新規のアイデアまたはプロセスの開発に対する維持された責任を示す
7 (*3)	・独創的な思考や研究のための基礎として、仕事または学習の領域における最前線の知識を含む高度に専門的な知識 ・領域内および異なる領域との境界面における知識課題の批判的な知覚	新しい知識や処理を開発するため、異なる領域の知識を統合するため、研究や改革で要求される特別な問題解決のスキル	・複雑かつ予測不能で新しい戦略的アプローチを要求する仕事または学習の状況を管理し変革する ・専門的知識と実践に貢献するため、あるいはチームの戦略的パフォーマンスの検証するための責任をとる
6 (*2)	原理と原則の批判的理解を含む仕事または学習の領域の高度な知識	仕事または学習の特別な領域で複雑で予測不能な問題を解決するために要求される熟達と革新を示す高度なスキル	・予測不能な仕事または学習の状況における意志決定のための責任をとりつつ、複雑な技術的または専門的活動（またはプロジェクト）の管理 ・個人とグループの専門的開発を管理するための責任をとる
5 (*1)	仕事または学習の領域内の包括的、専門的、事実的、論理的な知識とその知識の限界の知覚	抽象的な問題に対する創造的な解決を開発するために要求される認知と実技のスキルの包括的な範囲	・予測不能な変更のある仕事または学習の状況の中での管理・監督の練習 ・自己と他者のパフォーマンスの開発と調査
4	仕事または学習の領域内の幅広い状況における論理的で事実に基づく知識	仕事または学習の領域での特別な問題に対して解決するために要求される認知と実技のスキルの範囲	・普通に予測できるが変更されることのある仕事または学習の状況の指針による自己管理の練習 ・仕事または学習活動の改善と評価のために多少の責任をとりつつ他者の定型的仕事の監督
3	仕事または学習の領域内における事実、原則、過程、一般概念の知識	基礎的方法･道具･材料･情報の選択と適用による職務遂行と問題解決に要求される認知と実技のスキル	・仕事または学習における任務の遂行のための責任をとること ・問題解決における状況に自己の行動を適用すること
2	仕事または学習の領域内の基礎的な事実の知識	職務の遂行に適切な情報を利用するため、単純な規則と道具を用いて定型的な問題を解決するために要求される基礎的な認知と実技のスキル	いくらかの自主性を伴う監督の下での仕事または学習
1	基礎的な一般知識	単純な職務遂行に求められる基礎的スキル	体系化された状況における直接的監督の下での仕事または学習

*1 欧州高等教育領域資格枠組み（Framework for Qualifications of the European Higher Education Area）における「短期高等教育」
*2 欧州高等教育領域資格枠組みにおける「高等教育第１期（first cycle）」
*3 欧州高等教育領域資格枠組みにおける「高等教育第２期（second cycle）」
*4 欧州高等教育領域資格枠組みにおける「高等教育第３期（third cycle）」

EQFの主要な目的は、移動可能で柔軟な真の欧州の労働力をつくることに貢献することといえる。したがって、EQFは国を移動したいとか仕事を変えたいとか教育機関を移りたいと願っている学習者・労働者を助けることになる。EQFの主な利点として、次のようなことが挙げられている(注12)。

- 労働市場ニーズ（知識、スキル、能力のための）と教育訓練の提供とのよりよいマッチングを助

ける

- 公式、非公式の学習の有効化を容易にする
- 異なる国、異なる教育訓練制度を越えての資格の使用と移転を容易にする

なお、EUの他の制度との関係では、各個人の学歴・資格等のポートフォリオといえる「ユーロパス（Europass）」は各資格の互換性について表示しないが、将来的にはポートフォリオにEQFを反映させるという見通しである。また、EQFは高等教育分野に係るボローニャ・プロセスと互換性を持つことになる。

5.3 QCFとEQFとの関係

EQFでは、その枠組みを各国に直接に適用しようとすることをねらっていない。EQFプロセスでは各国の特性・実情に応じて、EQFと参照可能な資格枠組みをNQF（National Qualifications Framework）として構築することが求められている。NQFは、資格相互を関連付けたり整列させたりすることねらう、資格を分類するための原理のセットである。ただし、このNQFは、イギリスのQCFに至る過程で形成された概念枠組みと同名であるが、同一視することはできない。すでに述べたようにEQFプロセス以前に、イギリスでは職業資格を教育資格と同価値とみなして、その全国的水準をNQFという概念で示そうとする動きがNVQの進展とともに起こった。したがって、EQFを優先政策として具体化することを決定した2004年のマーストリヒト会合以降のNQFとは明らかな時差がある。イギリスでのNQFは、EQFプロセスの戦略に位置づけられるものではないが、先行的なものとしてEQFに影響をもたらした可能性は大きい。これを裏付ける、「EQFの開発はQCAによるドラフトによって2004年から加速した」という記述もある(注13)。

各国のNQFは、EQFをいわば「共通の物差し」として参照することによって各国NQFに位置付く個々の資格の相対的価値を示すことになる。つまり、各国NQFとEQFは国特有の資格の「翻訳」を助ける関係にある。このようなNQFとEQFとの関係は、図 3 に示すような概念になる。そこで、イギリスの場合には、QCFが2004年以降のEQFプロセスにおける各国NQFに相当するとみなすことができる。QCFでは最も下位の水準区分を数字ではなく「入門」と名付け、その上位の水準区分を 8 段階で設定したことは、同じ 8 段階の区分をとるEQFを意識したものとみられる。しかしながら、2009年8月に決定されたQCFとEQFとの参照対応関係の最終案は、図 4 に示すとおり、QCFの「入門 3 」がEQFのレベル 1 に、QCFのレベル 4 および 5 がEQFのレベル 5 に参照対応する関係となり、レベルの数字が一致しないものとなった(注14)。

QCFとEQFとの参照機能について、QCAでは次のように利点を挙げている。

学習者にとって――

- 同じことの学習の繰り返しを避けるために資格間のクレジットの移転を可能にする
- 電子学習者到達記録（LAR：Learner Achievement Record）に学習者の到達を記録する。また、自身や他者に過去の到達を価値付けることを促進する

学習プロバイダーにとって――

- 個別学習者番号（ULN：Unique Learner Number）と個々の電子学習到達記録（LAR）を通してすべての学習者の到達を追跡でき、プロバイダーに学習者の過去の到達に関する標準的な情報を与えることができる
- 使用者および学習者双方に理解容易となる言語で到達記述することを助ける

使用者にとって――

- 将来の従業員の到達のレベルとサイズを素早く測定する助けをする
- 誰もが理解できる用語で到達のレベルを記述することができる

その他の者にとって――

- イングランド、ウェールズ、北アイルランドの求めに応じたユニットと資格の明瞭な情報を提供することができる
- 到達したスキルが国境を越えて国際的に移転することを手助けする

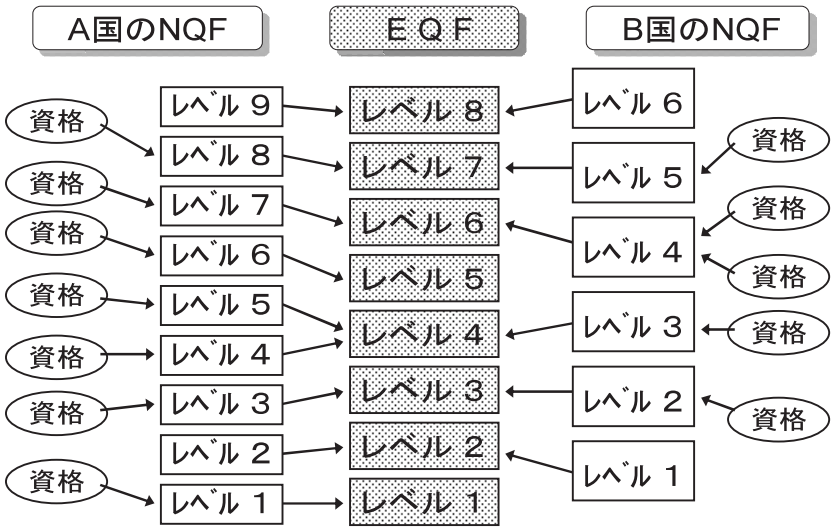


図 3　NQFとEQFを‘翻訳機’とする各国資格

＊QCA, The European Qualifications Framework（EQF）（P.5）をもとに筆者作成

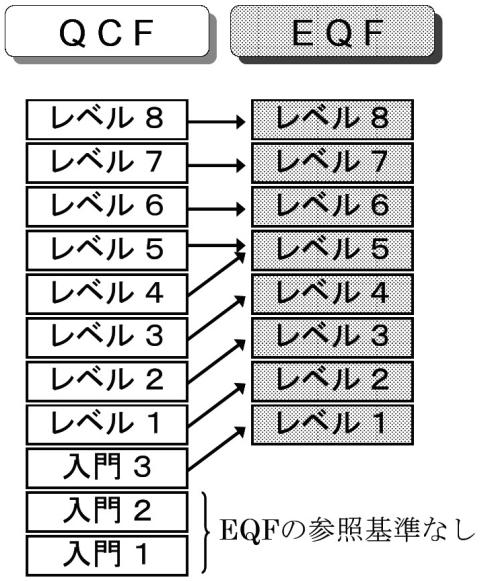


図 4　QCFとEQFとの参照対応関係

＊QCDA, *Report on referencing the Qualifications and Credit Framework to the European Qualifications Framework for Lifelong Learning*（p.35）をもとに筆者作成

現在、QCFを適用するイングランドと北アイルランドでは、従来のNQFとFHEQ（Framework for Higher Education Qualifications for England, Wales and Northern Ireland：高等教育資格枠組み）が混在している。従来のNQFはQCFと同じレベル構成（入門１～３，レベル１～８）であり、従来のNQFに位置づけられているすべての資格は比較的スムーズに、2010年末までにQCFに移行させる計画である。一方、FHEQは、５つのレベル区分で構成されており、QCFのレベル４～８と比較可能であるが、一般職業資格と異なるアプローチをとる。ただし、FHEQはボローニャ・プロセスのFQ-EHEA（欧州高等教育分野資格枠組み）と互換性がとれるようになっている。

スコットランドにおけるSCQF（Scottish Credit and Qualifications Framework）は、高等教育機関によってつくられるものも含むすべての資格をカバーする包括的な枠組みとして2001年に導入された。SCQFは、３つの「入り口（Access）」レベルを含む12のレベルで構成されている。また、ウェールズにおけるCQFW（Credit and Qualifications Framework for Wales）は、QCFとは別の枠組みとなっているが、QCFおよびFHEQを組み合わせたかたちの似た枠組みであり互換性がある。

5.4 EQFのための各国調整拠点ーNCP

欧州委員会は、EQFに各国の資格制度を関係づける方法としてNCP（National Coordination Point）の立ち上げを各参加国に提案した。EQFへの参照に関係する問題で欧州委員会と参加各国との最初の接点になるNCPについて、以下にその概略を補足しておく。

NCPは次の課題の実行を期待されている。

- EQFの基準に国の資格制度内での資格の基準を参照する
- EQFに国の資格制度を関係づけるとき教育訓練における品質保証のための欧州の原則を適用し促進する
- EQFに国の資格基準を参照するための方法が透明であり結果の決定が公開されていることを確認する
- 資格制度を通じていかに国の資格をEQFに関係づけるかにおいて利害関係者へのガイダンスを提供する
- 欧州レベルでの資格の使用と比較のうえで、国の法律と実践に従って、高等教育と職業教育訓練機関、社会的パートナー・セクター・専門家を含むすべての関連する国の利害関係者の参加を確認する

イギリスでは、EQFプロセスを実施するために、以下の３つのNCPが立ち上げられている。

a）EQFにQCFを関連づけるためのイングランドと北アイルランドのNCPとして、イングランドのQCAと北アイルランドCCEA (注15) との合同運営によるEQF Referencing Group

b）EQFにSCQFを関係づけるためのスコットランドのNCPとして、SCQFP（Scottish Credit and Qualifications Framework Partnership）

c）EQFにCQFWを関係づけるためのウェールズのNCPとしてDCELLS（Department for Children, Education, Lifelong Learning and Skills：児童・教育・生涯学習・技能省）

なお、EQFプロセス実施のための首尾一貫したアプローチをイギリス全土に提供することやNCP間のフォーラムを提供するなどの役割を果たすためにQCAとCCEAとの合同運営によって「UK EQF Co-ordinating Group（イギリスEQF調整グループ）」が2007年11月に設立された。

6．おわりに

以上の検討から、新たな枠組みQCFへの変革の意味とそのねらいをまとめるならば、国内の多種多様の資格はQCFによって整理・リファレンスが可能となり、そのことが在職者・事業主の生涯学習を促進させるとともに、EUがEQFによって目指す戦略のプロセスにも沿っていることが理解できる。また、イギリスはNVQを展開しその過程で形成された職業資格と教育資格の統一的な資格枠組みに関するスタディと実施の蓄積によって、EQFプロセスにおける先導的な役割を担っていると考えられる。

［注］

（注１）NVQにかかる職業資格の調整・整備を目的として86年に設置された政府組織であるNCVQ（National Council for Vocational Qualification；全国職業資格委員会）が、1997年教育法（Education Act,1997）」によりQCAに改組された。

（注２）National Statistics Data Service, *Vocational Qualifications in the UK*, 2007/08, p.2 〈http://www.the-dataservice.org.uk/NR/rdonlyres/BB4A673B-A17A-4F36-B8F9-1F63B7718A2C/0/natVocationalQualificationsintheUK200708SupplementaryReleasemar09.pdf〉

なお、NISVQ（National Information System for Vocational Qualifications）およびSVQ（Scottish Vocational Qualification）はスコットランドの職業資格

（注３）GCSE（General Certificate of Secondary Education）とは、基本的には16歳で全国統一試験を受験して得られる義務教育の終了証である。イギリス国民やイギリスで学ぶほとんどの者が受験する。14歳からGCSEに向けた２年間のカリキュラムに沿って勉強する。結果はＡ（最高）からアルファベット順に成績順にグレード付けされる。

（注４）「GCE-Aレベル（General Certificate of Education-Advanced Level）」とは、日本でいう高等学校レベルの教育修了資格に相当する大学入学のための必須の試験である。GCSE取得後に高等教育進学のための２年間のカリキュラムがあり、カリキュラム１年目を修了した 時点でASレベル（Advanced Subsidiary Level）の試験を受け、その成績によって２年目のカリキュラム（A2 レベル）に進むことが出来る。受験者は自分の希望する学部の入学条件を念頭に受験科目の選択を行う。試験の結果は、Ａ（最高）からＥ（パス）までアルファベット順にグレード付けされる。

（注５）柳田雅明・新井吾朗『熟練工養成の国際比較』73-74ページ

（注６）Department of Education and Science, Employment Department, and Welsh Office, *Education and Training for the 21st Century*, 1991,

（注７）前掲（柳田・新井）、80ページ

（注８）『欧州諸国における雇用政策としての新たな職業訓練政策の展開と労使の対応』（財）国際労働財団、平成15年３月、77～79ページ

（注９）リーチ卿が委員長を務めた政府の諮問委員会が2006年12月に提出した最終報告書“*Prosperity for all in the global economy ?world class skills, Final Report*”
〈http://www.dcsf.gov.uk/furthereducation/uploads/documents/2006-12%20LeitchReview1.pdf#search='Leitch%20Report%202006'〉

（注10）QCA, *The Qualification and Credit Framework: an introduction*

（注11）高等教育分野での資格枠組みはFQ-EHEA（Framework for Qualifications of the European Higher Education Area）

（注12）European Commission Education and Culture, *The European Qualifications Framework for Lifelong Learning*〈http://ec.europa.eu/dgs/education_culture/publ/pdf/eqf/broch_en.pdf〉

（注13）Qualifications and Curriculum Development Agency（QCDA）, *Report on referencing the Qualifications and Credit Framework to the European Qualifications Framework for Lifelong Learning*, 2009, p.8〈http://www.qcda.gov.uk/libraryAssets/media/qcda-09-4419_referencing_QCF_to_EQF.pdf〉

（注14）同上、p.35

（注15）CCEA（Northern Ireland Council for the Curriculum, Examinations and Assessment）は、北アイルランドの教育課程、試験、評価に関する委員会

［参考文献］

平沼高・佐々木英一・田中萬年『熟練工養成の国際比較』、ミネルヴァ書房、2007年 9 月

柳田雅明『イギリスにおける「資格制度」の研究』、多賀出版、2004年 2 月

国際労働財団『欧州諸国における雇用政策としての新たな職業訓練政策の展開と労使の対応』、2003年 3 月

European Commission Education and Culture, *The European Qualifications Framework for Lifelong Learning*, 2008

Department for Innovation, Universities & Skills, *World Class Skills: Implementing the Leitch Review of Skills in England*, July 2007

Leitch Review of Skills final report, *Prosperity for all in the global economy-world class skills*, TSO（The Stationery Office）, December 2006

Patrycja Lipinska, Eleonora Schmid & Manfred Tessaring, *Zooming in on 2010 -Reassessing vocational education and training*, Cedefop, 2007

Qualifications and Curriculum Development Agency (QCDA), *Report on referencing the Qualifications and Credit Framework to the European Qualifications Framework for Lifelong Learning*, August 2009